【185】

氏名	松　下　具　敬
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３４１７号
学位授与の日付	平成１１年１２月３１日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	Open reduction for congenital dislocation of the hip: comparison of the long-term results of the wide exposure method and Ludloff's method （先天性股関節脱臼に対する観血的整復術－広範囲展開法とLudloff法の長期成績の比較－）
論文審査委員	教授　田中　紀章　教授　村上　宅郎　教授　清水　信義

学位論文内容の要旨

本研究では，先天性股関節脱臼に対する観血的整復術として広範囲展開法を行った24例31股（A group）と，Ludloff法を行った27例32股（B group）の長期治療成績を比較検討した．手術は全例３歳までに行われた．最終調査時年齢は両groupとも平均17歳であった．A groupでは追加手術を施行した症例はなかったが，最終調査時のX線成績では26股(84%)が成績良好（Severin Class；I，II）であった．B groupでは34%の症例に各種補正手術が追加されたが，最終調査時18股（56%）のみが成績良好であった．また，大腿骨頭壊死の出現率はA groupでは３%，B groupでは22%であった．広範囲展開法のX線学的治療成績は，Ludloff法の成績より明らかに優れていた．保存的に整復不能か，歩行開始後に診断された小児の先天性股関節脱臼を観血的に整復する時には，関節包の腸骨壁への癒着と拘縮した短外旋筋群からなる股関節後上方部の緊張が完全に解離されるべきであると考える．

論文審査結果の要旨

本研究は、先天性股関節脱臼に対する観血的整復術として広範囲展開法を行った24例31股（A group）と、Ludloff 法を行った 27例32股（B group）の長期治療成績を比較検討したものである。A group では追加手術を施行した症例はなく、最終調査時の X線成績では26股（84%）が成績良好（Severin Class; I, II）であったのに対し、B group では34%の症例に各種補正手術が追加され、最終調査時 18股（56%）のみが成績良好であった。また、大腿骨頭壊死の出現率はA group では 3%、B group では22%であり、広範囲展開法の治療成績は Ludloff 法より明らかに優れていた。

本論文は日本で始められた先天性股関節脱臼に対する広範囲展開法の優秀性を世界に示したものであり、よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。